



問 不要事業を洗い出し 早急な対策を

答 支援策を講じ、事業展開する



みすずの会
江田 五六 議員

問 コロナ問題を契機に、不要不急事業について大胆な洗い出しが必要である。事業見直しで捻出した予算で、商店・飲食業等の事業主へ支援することについて村の考えは。今後村民がアフターコロナに対応した「自分らしい新たな生活様式」へ移行しやすい環境づくりと支援が必要と考えるが。

答 事業の不用額調査や事務経費の一部は執行留保するなど、適切な予算調整をしている。また「新しい生活様式」にも配慮した事業展開に努める。



これからは地域で自給自足が必要

問 アフターコロナの農業政策とは

答 国の動向を注視し連携する

問 近未来には、食卓から野菜が消えると言われている。パンデミックに備えた食糧確保への対応策は。国・県任せにせず村独自の対応策があるはず。

答 コロナ禍により、各国の移動規制や物流の混乱が出ており、国内産農産物が見直されている。食糧確保策は、国の動向を注視し、近隣自治体と情報共有・連携していく。

一般質問

問 学校等の再開後の対策は

答 換気や消毒、3密を避ける工夫等



新政とうかい
寺門 定範 議員

問 新型コロナウイルス感染症対策として行われていた臨時休校、休園が終わり、再開後の感染予防策、熱中症対策等を伺う。

答 登校前の体温測定、登校の際の手洗いの実施やマスクの着用を依頼している。また、校内では、教室等の適切な換気の実施や児童生徒が触れる恐れがある場所の消毒を実施している。

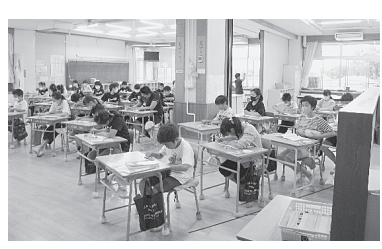
教職員の目が届かない所で「3密」の状態になりやすい授業時間の休み時間や登下校時等は、国のガイドライン等に沿い、出来る限り

「3密」を避けるよう工夫する。学校医や学校薬剤師及び産業医の専門家と連携して対策を進める。

熱中症対策は、こまめな水分補給と体調確認等、国のガイドラインに沿って実施する。

問 消毒や清掃など従来にはない仕事が増えている。学校現場への新たなスタッフの増員について伺う。

答 児童生徒が触る場所は多数ある。消毒は、教職員にとって負担感はあるが、養護教諭を中心に、教職員間で協力し合う。



パーテーションを外し、2つの教室をひとつにした教室（石神小5年生）